

第4期米沢市ごみ処理基本計画（案）に係るパブリック・コメントの結果

1 募集対象計画等

第4期米沢市ごみ処理基本計画（案）

2 募集期間

令和8年1月5日（月）から令和8年1月26日（月）まで

3 意見の提出者数及び件数

提出者数1者／提出件数4件

4 意見の内容及び意見に対する回答

次ページ以降に掲載しています。

第4期米沢市ごみ処理基本計画（案）に対するパブリックコメントへの回答について

番号	項目	頁	意見の内容	回答	修正の有無
1	第4章 基本方針3 個別方針(3)	32	<p>可燃ごみ袋の名称変更を希望します。</p> <p>現在、可燃ごみ袋の名称は「指定可燃ごみ袋（もやせるもの）」となっていますが、分別意識を一層高める観点から、以下の自治体（2025/11/15 毎日新聞より抜粋）を参考に名称の変更をご検討いただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県小牧市（2025/4）……「燃やすしかないごみ」に名称変更。さらに「分別がんばったけどこれ以上はリサイクルできないごみ」ともプリントされています。 <p>変更理由として、焼却処分しかないことを強調して明確に枠付けすることで分別意識を高め、ごみの減量を狙っています。燃やすごみには、資源化できる包装紙や封筒などの「雑紙」、衣服などの「古布」が多く含まれていたそうです。また、「燃やすしかないごみ」は主に生ごみが該当するとし、前年度比5%減を目指すとしています。 <ul style="list-style-type: none"> ・徳島市（2023/5）……「分別頑張ったんやけど、燃やすしかないごみ」に変更。前年度比で約4%減ったとしています。 ・福岡県柳川市（2021）……全国で初めて「燃やすしかないごみ」に変えました。24年度のごみの総量が実施前と比べて約20%減ったとしています。 </p>	<p>近年、可燃ごみ袋の名称を「燃やすしかないごみ」などとする事で、分別意識の向上やごみ減量につなげている自治体があり、本市としても一定の効果あることを認識しています。焼却処分に限定されるごみであることを明確にすることで、雑紙や古繊維類など資源化可能なものの分別を促す考え方は、本市が目指す循環型社会の形成やごみ減量の方向性とも合致しています。</p> <p>一方、指定ごみ袋は置賜広域行政事務組合が管理しているため、名称変更には構成市町の合意が必要であり、本市単独での対応は困難な状況です。今後は、先行自治体の事例や効果を踏まえながら、同組合の場で名称の在り方を含めた啓発手法について協議・検討するよう働きかけていきます。</p> <p>御意見を踏まえ、追加しました（31ページ）。 第4章 基本方針1 個別方針(1) 生活系ごみの削減 ごみの減量化のため、可燃性ごみ袋の名称を「燃やすしかないごみ」のように変更することを置賜広域行政事務組合と協議します。</p>	有
2	第4章 基本方針3 個別方針(4)	33	<p>てんぷら油回収システムの構築を希望します。</p> <p>各家庭から排出される使用済み天ぷら油をリサイクルし、有効活用できる回収システムを希望します。すでに実施している自治体もあると伺っています。</p> <p>なお、飲食店等の使用済み油は、どう処理されているのでしょうか。</p>	<p>使用済み天ぷら油を回収し、燃料等として有効活用する取組は、廃棄物の減量や資源循環の推進に資する有効な施策であり、本市においても先行自治体の事例を参考にしながら実施に向けた検討を行います。近隣自治体には回収・再資源化を行う事業者が存在し、仕組みの構築自体は可能であると認識しています。</p> <p>一方で、家庭から排出される天ぷら油を安定的に回収するためには、市内の小売店等への回収拠点の設置が不可欠ですが、現時点では関係事業者の十分な同意が得られていないことが課題となっています。今後も、先行事例や関係事業者の動向を踏まえ、課題整理や方策の検討を継続していきます。</p> <p>なお、飲食店等から排出される使用済み油は産業廃棄物であり、本市として全体量は把握していませんが、民間業者による資源化と廃棄物処理が行われているものと考えています。</p>	無

番号	項目	頁	意見の内容	回答	修正の有無
3	第4章 基本方針1 個別方針(1)	29	<p>生ごみコンポストの一層の普及を希望します。</p> <p>私事ですが、3年前の段ボール式生ごみコンポスト作成講習会を経て取り組んでいます。生ごみの50%以上が確実に減っています。昨年肥料として施した野菜の生育もすごく順調でした。</p>	<p>生ごみコンポストは、家庭から排出される生ごみを大きく減量できるだけでなく、堆肥として再利用することで、資源循環や環境負荷の低減にもつながる有効な取組であり、段ボール式など手軽に始められる方法は、市民の皆様が取り組みやすい点で大きな意義があると考えています。</p> <p>本市では、これまで講習会の開催や情報提供などを通じて普及啓発に取り組んでまいりましたが、今後も、より多くの市民の皆様にコンポストの効果や魅力を知っていただけるような普及促進に一層力を入れていきたいと考えており、あわせて、実践されている方の声や成果を活かした啓発手法についても検討していきます。</p> <p>御意見を踏まえ修正しました(31ページ)</p> <p>個別方針(1)生活系ごみの削減</p> <p>実践例の紹介や研修会を通じて、生ごみの水切りを推進するとともに、実践者の声なども取り入れながら、コンポストの普及や補助のあり方について検討します。あわせて、さらなる生ごみ減量に向け処理手法の研究も行っていきます。</p> <p>徹底を推進します。また、生ごみコンポストの普及に努めます。</p>	有
4	第4章 基本方針1 個別方針(1)	29	<p>将来的には、「コンポストセンター立ち上げ」の検討を希望します。</p> <p>長井市では1997年からレインボープランと称するコンポストセンターを設置し、たい肥生産を開始、生ごみのリサイクルシステム(資源化)を実現しています。同市によれば、生活系可燃ごみが稼働前の1996(H8)年度と1997(H9)年度を比較すると約30%減少したとしています。中には、長井市の取組みを参考にして、生ごみ循環システムを構築した自治体もあるとのこと。</p> <p>なお、設置経費及び維持費とも多額の経費が見込まれることから、まずは設置可能かどうか是非一度ご検討いただきたいと思います。</p>	<p>長井市の「レインボープラン」は、生ごみの資源化により可燃ごみの大幅な減量を実現した先進的な取組であり、参考とすべき事例であると認識しています。一方で、コンポストセンターの整備や維持管理には多額の費用が必要となることから、導入に当たっては慎重な検討が必要と考えています。</p> <p>こうした中、市内には事業系食品残渣を活用したバイオガス発電に取り組む事業者が存在し、脱炭素先行地域づくり事業においても新たなバイオガス発電事業が計画されています。今後はこれらの取組を踏まえ、収集方法など課題はありますが、家庭から排出される食品残渣についても、資源化などの有効活用について検討していきます。</p>	無